

2 授業と評価の実践

2 - 1 授業と評価の一体化の実践

学習活動 1 - 「曲を聴いて曲全体の流れをつかみ、交互唱をしながら曲に親しむ。」
1 - 「パート毎に練習し、自分のパートを歌えるようにする。」

(1) 指導・学習の過程

この学習活動は、本題材の導入段階であり曲全体のイメージをつかみ、自分のパートを歌えるようにすることを目指している。

まず、学習活動 1 - 1 では曲を聴いたり教師の範唱に続いて歌う交互唱をしながら曲の感じをつかむようにした。

学習活動 1 - 2 では、本時の目標と評価カード（評価基準）を示し、自分の目標を具体的にもつことができるようにした。

(2) 評価結果

歌唱場面観察、パート練習場面観察、評価カード をもとに評価した結果は、以下のとおりであった。

評価の観点	学習活動における 具体的な評価規準	評 価 基 準		
		A (3)	B (2)	C (1)
関心・意欲・態度	曲を聴いたり、交互唱をしながら曲全体のイメージをつかもうとする。	6人	23人	0人
関心・意欲・態度	パート練習に協力して取り組み、自分のパートを唱おうとする。	2人	27人	0人
表現の技能	安定した音程で、自分のパートを唱うことができる。	26人	3人	0人

このように、表現の技能面では、大変満足のいく結果を得た。また、関心・意欲・態度の についても児童の反応は良かったと判断しても妥当であると考え。このことから、おおむね満足のいく学習活動であったと考える。

(3) 指導の改善と実施

学習活動 1 - の結果、テープの音があれば歌える児童 3 人を含め全員が自分のパートを歌えるようになった。そこで次の段階である「パート練習から合唱へ進め、よりよい合唱にするための課題」をつかむという学習活動を行うことにした。

学習活動 2 - パート練習の後合唱し、テープに録る。声の重なりの響きを感じ取るとともに、課題をつかむ。

(1) 指導・学習の過程

合唱の録画資料から自分たちの課題を明確にすることをめざした。

パート毎に歌った段階から合唱へ進み、録画資料から感じたことを発表し、学習カード(図) に、自分たちの合唱で足りないものを考え記入した。

図 1 学習カード

レベルアップカード	合唱版	4年	組氏名
* レベルアップポイント 1			
歌声を合わせた感想を書こう			
<div style="border: 1px dashed black; height: 40px;"></div>			
自分たちの合唱で足りないことはなんだろう？			
<div style="border: 1px dashed black; height: 40px;"></div>			

(2) 評価結果

学習カード をもとに評価した結果は以下のとおりである。

評価の観点	学習活動における 具体的な評価規準	評 価 基 準		
		A (3)	B (2)	C (1)
鑑賞の能力	合唱したときの旋律の変化を聴き取り、発言することができる。	3人	17人	9人
関心・意欲・態度	自分たちの合唱の課題として、歌詞の内容と強弱から受ける気持ちについて書こうとする。	3人	24人	2人

学習活動 2 - の結果、鑑賞の能力 での学習活動から自らが課題を導き出すことができた児童は 20 人、関心・意欲・態度 についての目標に到達することのできた児童は 27 人である。

(3) 指導の改善と実施

目標に到達することのできなかつた児童へは個別にゆっくり考える時間を与え、言葉にして表現できないところを助言し、口答することができた。

学習活動 2 - 歌詞の内容が盛り上がるころ、強弱記号の働きが大きいところを見つけより気持ちをこめて歌えるようにする。

(1) 指導・学習の過程

この学習活動は、「合唱の録画資料から自分たちの課題を明確にする」学習活動 2 - の次に行ったものである。

「歌詞の内容や強弱記号からより気持ちをこめて表現する」を目指している。学習カー

ド（図2）に各自が自分の考えた気持ちをこめて表現したい部分を書きだし、発表し合う中で意見をまとめ、実際に歌いながら合唱を仕上げる活動を行った。

図2 学習カード

レベルアップカード	合唱版						
4年 組氏名							
★ レ ベ ル ア ッ プ ポ イ ン ト2	<table border="1" style="width: 100%; border-collapse: collapse;"> <tr> <td style="width: 5%;"></td> <td style="height: 40px; vertical-align: top;"> <div style="border-bottom: 1px dashed black; margin-bottom: 5px;"></div> <div style="border-bottom: 1px dashed black; margin-bottom: 5px;"></div> </td> </tr> <tr> <td style="width: 5%;"></td> <td style="height: 40px; vertical-align: top;"> <div style="border-bottom: 1px dashed black; margin-bottom: 5px;"></div> <div style="border-bottom: 1px dashed black; margin-bottom: 5px;"></div> </td> </tr> <tr> <td style="width: 5%;"></td> <td style="height: 40px; vertical-align: top;"> <div style="border-bottom: 1px dashed black; margin-bottom: 5px;"></div> <div style="border-bottom: 1px dashed black; margin-bottom: 5px;"></div> </td> </tr> </table>		<div style="border-bottom: 1px dashed black; margin-bottom: 5px;"></div> <div style="border-bottom: 1px dashed black; margin-bottom: 5px;"></div>		<div style="border-bottom: 1px dashed black; margin-bottom: 5px;"></div> <div style="border-bottom: 1px dashed black; margin-bottom: 5px;"></div>		<div style="border-bottom: 1px dashed black; margin-bottom: 5px;"></div> <div style="border-bottom: 1px dashed black; margin-bottom: 5px;"></div>
	<div style="border-bottom: 1px dashed black; margin-bottom: 5px;"></div> <div style="border-bottom: 1px dashed black; margin-bottom: 5px;"></div>						
	<div style="border-bottom: 1px dashed black; margin-bottom: 5px;"></div> <div style="border-bottom: 1px dashed black; margin-bottom: 5px;"></div>						
	<div style="border-bottom: 1px dashed black; margin-bottom: 5px;"></div> <div style="border-bottom: 1px dashed black; margin-bottom: 5px;"></div>						
特に気持ちをこめて歌いたいところを具体的に書いてみよう。							

(2) 評価結果

学習カード をもとに評価した結果は以下のとおりである。

評価の観点	学習活動における 具体的な評価規準	評 価 基 準		
		A(3)	B(2)	C(1)
感受・表現の工夫	歌詞の内容や強弱記号から気持ちをこめる部分を書こうとする。	15人	10人	2人

(3) 指導の改善と実施

学習活動2 - の結果、感受や表現の工夫 について目標に到達することのできた児童は35人であった。目標に到達することのできなかつた児童は、一緒に歌いながら学習活動2 - を想起する時間をとり、歌詞や強弱からの盛り上がりを感じながら理解を促していくようにした。

学習活動2 - 音の重なりのおもしろさや美しさを楽しむための方法を例示を参考に話し合う。

学習活動2 - 合奏唱に向けて楽器を分担する。パート練習をして自分のパートを演奏できるようにする。

(1) 指導・学習の過程

音の重なりのおもしろさや美しさを楽しむ方法に、既習している歌とリコーダーの音の重なりを例示し、合奏と合唱を組み合わせて楽しむ方法を導き出す。さらに合唱曲に合う楽器を話し合い、発言する場面の観察を行った。

次に楽器を分担し本時の目標と評価カード(評価基準)を示し、自分の目標を具体的に持つことができるようにした。

(2) 評価結果

話し合い場面の観察と評価カードをもとにした評価結果は次のとおりである。

評価の観点	学習活動における 具体的な評価規準	評価基準		
		A(3)	B(2)	C(1)
関心・意欲・態度	例示を参考にして具体的に発言しようとする。	29人	0人	0人
表現の技能	基礎的な演奏技能があり、自分のパートを演奏することができる。	25人	24人	2人

(3) 指導の改善と工夫

具体的な自分の目標を持たせ、全員が自分のパートを演奏できるようになった。そのため、自分たちで課題をつかむための学習活動に入っていきことにした。

学習活動2 -	パート練習の後合奏を録画して鑑賞し、音の重なり of 響きを感じ取り課題をつかむ。
学習活動2 -	歌詞の内容が盛り上がるどころ、強弱記号の働きが大きいところを見つけより気持ちをこめて演奏できるようにする。

(1) 指導・学習の過程

合唱では教師主導で学習手順を学習し曲作りを深めていったが、合奏では自分たち中心で曲作りを進めていった。学習カードを活用しているか、話し合いが十分行われているか場面を十分に観察した。もちろん合唱練習時の学習カード、掲示物を手がかりとして練習を進めていった。

(2) 評価結果

録画資料、話し合い場面の観察、学習カードをもとにした評価結果は次の通りである。

評価の観点	学習活動における 具体的な評価規準	評価基準		
		A(3)	B(2)	C(1)
鑑賞の能力	それぞれのパートの曲想が合っていないことに気づき、発言、挙手しようとしている。	24人	5人	0人

感受や表現の工夫	互いの音の重なりを感じるために大切なことについて発言、挙手しようとしている。	2人	27人	0人
関心・意欲・態度	合奏のイメージや気持ちを合唱と合わせようと書き出そうとする。	0人	25人	4人
感受や表現の工夫	イメージを生かした表現のための具体的な演奏場所を書き込もうとしている。	5人	17人	7人

(3) 指導の改善と工夫

学習活動2 - の結果鑑賞の能力 について、目標に到達することのできた児童は29人、感受表現の工夫 について目標に到達することのできた児童は29人、関心・意欲・態度 について目標に到達することのできた児童は25人、感受表現の工夫 について目標に到達することのできた児童は22人である。目標に到達することのできなかつた児童については、もう一度歌うことを通して一緒に歌いながら学習活動2 - を想起する時間を取り、歌詞や強弱からの盛り上がり部分を思い出し、その都度合奏部分と当てはめて書き込みながら理解を促していくようにした。

学習活動3 - 合奏唱の練習をする。自分たちの合奏唱を録画し、さらにみんなできれいに響き合わせる方法を話し合う。

(1) 指導・学習の過程

前時までに練習してきた成果を発揮し、合奏と合唱で組み立てた合奏唱として仕上げていく。十分練習する過程の中に、録画して課題を見つけ、改善を繰り返しながら学習を深め、きれいで豊かなひびきをめざした。

(2) 評価結果

録画資料、話し合い場面の観察、評価カードをもとにした評価結果は次の通りである。

評価の観点	学習活動における具体的な評価規準	評価基準		
		A(3)	B(2)	C(1)
鑑賞の能力	音が重なり合う音楽表現の具体的なよさを発言しようとしている。	0人	29人	0人
感受や表現の工夫	合唱と合わせ、重なる音が増えることで互いの音の重なりを感じ取り、より美しい音を響き合わせる方法を発言、挙手しようとする。	0人	29人	0人
表現の技能	表現の工夫を実現するために気持ちをこめて演奏しようとしている。	15人	14人	0人

(3) 指導の改善と実施

学習活動3 - の結果、鑑賞の能力 と感受表現の工夫 については、A評価は0であった。B以上を通過としているので全員が目標を到達できたとはんだんした。A評価がこの時点で0と出た結果は、A評価の基準が高かったとともに、評価資料が記述方式をとったため、文章表現上Bになった児童がいた。その後の場面観察において、最終的にはそれぞれ鑑賞の能力 は5人、感受表現の工夫 は6人A評価と判断できる児童がいた。次時の以降の活動では、より満足した自己評価となるよう個別に支援するとともに評価基準を見直した。

学習活動4 - 表現を発表し合う。

(1) 指導・学習の過程

他のクラスと合同授業を行い、練習の成果を発表する。

(2) 評価結果

評価カード、学習カードをもとにした評価結果は次の通りである。

評価の観点	学習活動における 具体的な評価規準	評価基準		
		A(3)	B(2)	C(1)
表現の技能	表現の工夫を聴いてもらう場面においても身についた演奏技能を発揮して演奏することができる。	29人	0人	0人
鑑賞の能力	音が重なり合う音楽表現のよさを感じ取りながら友だちの表現を聴いて相互評価している。	8人	18人	3人

(3) 指導の改善と実施

学習活動4 - の結果、表現の技能 について目標に到達することのできた児童は29人、鑑賞の能力 について目標に到達することのできた児童は26人であった。鑑賞の能力 について目標に到達できなかった児童には鑑賞のポイントを確認し、理解を促してからもう一度書くようにした。

2-2 自己学習力の向上に向けた評価の工夫

(1) 第1レベルの工夫・・・評価カードの活用

評価カードを作成し(図3)、学習活動の始めに児童に示した。評価カードは、この時間の目標と、学習活動を通してどのようなことができるようになればよいのかが明確であり、児童一人一人がどのように学習活動を進めるのかを把握してから学習を行った。そして、授業の終わりに自己評価を行い、自分の学習状況や次時の課題に気づいていけるようにした。

図3 評価カード

評価カード	a	4年	組氏名
「太陽のマーチ」の自分のパートを歌えるようにする。			
どこまでできたかな？ *表現の技能*			
	A (3)	B (2)	C (1)
	練習用テープがなくても自分のパートの音をうたうことができる。	練習用テープがあれば自分のパートの音を歌うことができる。	練習用テープがあっても自分のパートの音が歌えない。
今日の学習の感想や次の時間にできるようになりたいことを書きましょう。			

評価カードを使った学習方法について、児童にアンケートをとったところ、次のような結果となった。

1. その時間の学習目標がわかりましたか。
 よくわかった 26人 だいたいわかった 3人 わからない 0人
2. その時間にどのようなことができるようになればいいのかが、わかりましたか。
 よくわかった 26人 だいたいわかった 3人 わからない 0人
3. 評価カードについての感想（簡単に）
 - ・自分のできるようになったことがわかるのでうれしい。
 - ・Aになれるようにがんばった。
 - ・やる気が出た。
 - ・できるようになることだけを考えていることが多くて楽しくないときもあった。
 - ・やることははっきりわかるからいいと思う。
 - ・カードを書く時間があったらもっと歌いたかった。
 - ・授業の大切なことが分かるから、たまにはいい。

上記の質問1、2の結果から、評価カードを使うことは学習目標を明確にし、どのようなことができるようになればよいのかがわかってから、学習に取り組めたことがわかる。また、評価カードについての感想の内容は4年生らしく素直な感想が多く考えさせられた。しかし、評価カードを活用して児童に目標などを示していくことは、自らの学習状況がわかり、自らの課題もとらえることができると考えられる。このような学習は積み重ねていくことで自己学習力の向上が期待できる。

(2) 第二レベルの工夫・・・児童による目標の設定

評価カードにより、本時の感想とともに次時の自己目標を設定している。実際には教師から提示された目標を目指しながら、自己目標も意識して学習活動に取り組むことになる。4年生という発達段階から、児童の自己目標が教師の意図する目標とずれないように、前述の学習カードで学習目標を整理しながら学習活動を進め、題材である「みんなで合わせて」の目標に到達できるようにした。また、合唱の学習では教師が中心となって課題＝目標設定した学習の流れを、合奏練習に入ってから児童中心で課題＝目標設定を進めていけるようにした。

以下に、教師の提示した目標と、児童の設定した自己目標とのかかわりを示す。

< 第3時の目標 >

(教師) 自分たちの合唱の課題を見つけよう。

(児童A) みんなの気持ちがあってないし、まっすぐに聞こえるのもっと気持ちをこめて歌いたい。

(児童B) ソプラノとアルトがバラバラ。バランスが悪い。

< 第4時の目標 >

(教師) レベルアップポイントを探して気持ちをこめて歌えるようにしよう。

(児童A) 声高くのフォルテと最後のところをみんなと気持ちを合わせてうたった。

(児童B) 声高くのところ(フォルテ)、ぼくたちの太陽はのところ(みんなと合わせる)、最後のところ(盛り上がる気持ち、クレッシェンド)のところを気持ちをこめたい。

この例から、教師の目標を児童の力で解決することにより、児童が目標をより具体的に学習活動に活かしていくことができると考える。

また、児童A・児童Bの評定は2人ともこの題材の目標を達成している。

2 - 3 外部への説明責任に向けた評価の工夫

(1) 単元の総括的評価結果

本單元における観点別の総括的評価は、「関心・意欲・態度」については、学習活動1 - ・ ・ ・、学習活動2 - ・ ・ ・ の評価結果の総和で、「音楽的な感受や表現の工夫」については、学習活動2 - ・ ・ ・、学習活動3 - ・ ・ ・ の総和で、「表現の技能」については、学習活動2 - ・ ・ ・、学習活動3 - ・ ・ ・、学習活動4 - ・ ・ ・ の総和で、「鑑賞の能力」については、学習活動2 - ・ ・ ・、学習活動3 - ・ ・ ・、学習活動4 - ・ ・ ・ の総和で行うこととした。

関心・意欲・態度

單元における個人ごとの総括的評価結果(=評定)を基にみると、Aは23人、Bは6人、Cは0人であった。B以上は合計29人となる。このため、クラス全体としては100%が目標を達成したと考えられる。單元を通して、関心・意欲・態度の育成は目標を達

成したと判断できる。

音楽的な感受や表現の工夫

単元における個人ごとの総括的評価結果（＝評定）を基にみると、Aは14人、Bは14人、Cは1人であった。B以上は合計28人となる。このため、クラス全体としては96%以上（ $28 \div 29 = 96.5$ ）が目標を達成したと考えられる。単元を通して、音楽的な感受や表現の工夫の育成は目標を達成したと判断できる。

表現の技能

単元における個人ごとの総括的評価結果（＝評定）を基にみると、Aは26人、Bは3人、Cは0人であった。B以上は合計29人となる。このため、クラス全体としては100%が目標を達成したと考えられる。単元を通して、表現の技能の育成は目標を達成したと判断できる。

鑑賞の能力

単元における個人ごとの総括的評価結果（＝評定）を基にみると、Aは8人、Bは18人、Cは3人であった。B以上は合計26人となる。このため、クラス全体としては89%以上（ $26 \div 29 = 89.6$ ）が目標を達成したと考えられる。単元を通して、鑑賞の能力の育成は目標を達成したと判断できる。

（2）単元における個人内評価結果

次に児童A～Cの3名を事例にしなが、個人内評価の特質について検討することにする。そのために、まず、3人の児童の＜個人評価結果表＞を示すと、次の通りである。

個人評価結果表

		学習活動1		学習活動2				学習活動3	学習活動4	評定	
A 児	関心・意欲・態度	<u>3</u>	<u>3</u>	<u>3</u>		<u>3</u>	<u>3</u>			A	
	感受・工夫				3		<u>3</u>	<u>3</u>	<u>3</u>	3	A
	表現の技能	3				<u>3</u>			<u>3</u>	<u>3</u>	A
	鑑賞の能力			3			<u>3</u>		<u>3</u>	<u>3</u>	A
B 児	関心・意欲・態度	<u>2</u>	<u>2</u>	<u>3</u>		<u>3</u>	<u>3</u>				A
	感受・工夫				2		<u>2</u>	<u>2</u>	<u>2</u>	<u>2</u>	B
	表現の技能	3				<u>3</u>			<u>3</u>	<u>3</u>	A
	鑑賞の能力			2		3	<u>3</u>		<u>3</u>	<u>3</u>	A
C 児	関心・意欲・態度	<u>1</u>	<u>1</u>	<u>2</u>		<u>2</u>	<u>2</u>				B
	感受・工夫				1		<u>1</u>	<u>1</u>	<u>2</u>	<u>2</u>	C
	表現の技能	1				<u>1</u>			<u>2</u>	<u>2</u>	B
	鑑賞の能力			1			<u>1</u>		<u>2</u>	<u>1</u>	C

（注）総括的評価（評定）に用いた評価結果には下線を付した。評定は総括的評価結果に基づき、Aは80%以上相当、Bは60～79%相当、Cは59%以下相当の

達成状況を示している。

観点間経時的評価

児童Aは、学習活動1～4を通じて、4観点ともに3であり、高い水準の発達のまま推移しているという構造的な発達特質がみられる。このため、評価においても4観点ともAとなっている。

なお、このA児と同様な発達傾向を示す児童は、他にクラスに9名いた。

児童Bは、学習活動1から「表現の技能」は3と高く、「関心・意欲・態度」は2である。学習活動2から3にかけては、「関心・意欲・態度」と「鑑賞の能力」が2から3へと伸びたが、「感受・工夫」は2の水準のまま推移している。評価においては「感受・工夫」はBであるが、他の3つの観点はともにAとなっている。

B児と同様な発達傾向を示す児童は、他にクラスに13名いた。

児童Cは、学習活動1においては「関心・意欲・態度」と「表現の技能」が1と低い水準にある。学習活動2になると、「関心・意欲・態度」は2の水準になり、学習活動3においては「表現の技能」も2へと上昇している。他の「感受・工夫」と「鑑賞の能力」は、学習活動1・2ではともに1と低水準だが、学習活動3になるとともに2の水準へと上昇している。評価をみると、「関心・意欲・態度」及び「表現の技能」はBであり、「感受・工夫」及び「鑑賞の能力」はCとなっている。

なお、このC児と同様な発達傾向を示す児童は、他にクラスに5名いた。

観点内経時的評価

「音楽への関心・意欲・態度」に関して

児童Aは3 3 3というように、学習過程を通じて安定して高い発達の水準にあり、評価もAであった。このような高く安定した傾向を示す児童は、他にクラスに8名いた。

児童Bは、2 2 2というように、学習過程を通じて2の水準のまま推移し、評価もBであった。このような児童は、他にクラスに12名いた。

児童Cは1 2 2と推移し、評価はBであった。このような傾向を示す児童は、他にクラスに7名いた。

「音楽的な感受や表現の工夫」に関して

児童Aは3 3 3と高い水準で推移しており、評価もAであった。このような高く安定した傾向を示す児童は、他にクラスに5名いた。

児童Bは2 2 2と、2の水準のまま推移しており、評価もBであった。このような傾向を示す児童は、他にクラスに17名いた。

児童Cは1 2とやや上昇傾向が見られたが評価はCであった。このような傾向を示す児童は、他にクラスに5名いた。

「表現の技能」に関して

児童A、児童Bはともに3 3 3というように、学習過程を通じて高い水準で安定しており、評価もAであった。このようなA、B児と同様に、高く安定した傾向を示す児童

は他にクラスに19名いた。

一方、児童Cは1 2というように上昇傾向を見せ、評定もBであった。なお、C児と同様な発達傾向を示す児童は、他にクラスに8名いた。

「鑑賞の能力」に関して

児童Aのように3 3 3というように、学習過程を通じて高い水準で安定しており、評定もAであった。このような高く安定した傾向を示す児童は、他にクラスに6名いた。

児童Bは2 3と、上昇傾向を示し、評定もAであった。なお、このようなB児と同様な発達傾向を示す児童は、他にクラスに18名いた。

児童Cは1 2 1というように、上昇しては下降するといった傾向が見られ、最後は1となっている。評定もCであった。

なお、このようなC児と同様な発達傾向を示す児童は、他にクラスに3名いた。